

科目番号	教室	登録人数	履修登録方法
CED14030			抽選対象
開講年度	期間	曜日時限	開講学部等
2025	後学期	木6	地域共創研究科
講義コード	科目名[英文名]	単位数	
C00114002	ソーシャル・イノベーション入門	2	
担当教員[ローマ字表記]			
畑中 寛 [Hiroshi Hatanaka]			

授業の形態

講義、演習又は実験、実務経験講師

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ、学生が文献や資料を調べる

授業内容と方法

1990年代以降、グローバル化や技術革新の進展に伴い、社会課題がより複雑化・多様化しました。このように、複雑化する社会課題に対して、既存の枠組みにとらわれない革新的な解決策が求められるようになりました。特に、ビジネスの手法を活用して社会課題を解決しようとする流れが生まれ、多くの社会起業家が登場しています。また、公共・企業・非営利セクターの役割と関係性が変化し、セクター間の境界が曖昧になってきました。これにより、異なるセクター間の協働や知見の共有が促進され、新たな解決策を生み出す土壌が形成されました。企業の社会的責任（CSR）に対する認識が変化し、単なる慈善活動から本業を通じた社会課題解決への貢献が求められるようになりました。SDGsやESGの概念の普及も、この流れを加速させています。政府の役割が変化し、社会課題解決における民間セクターの重要性が増しました。これにより、社会的企業や社会的インパクト投資などの新たな概念が生まれました。さらに、インターネットの普及などにより、市民の社会参加意識が高まり、NPOやNGOなどの市民社会組織の活動が活発化しました。これにより、従来の公助を補完・代替する新たな主体が登場しています。

ソーシャル・イノベーションは、これらの背景を踏まえ、セクターを超えた協働や革新的なアプローチによって社会課題の解決を目指す動きとして発展してきました。今後も、持続可能な社会の実現に向けて、その重要性はさらに高まっていくと考えられます。

本科目は、受講生が自治体、団体や企業等が取り組んでいる社会課題の解決を調査し、実際に課題解決に向けてグループで活動することで、これからの社会に求められる課題解決基礎力を培うことを目的とします。また、県内地域が実際に取り組む社会課題の解決のためのプロジェクトからテーマを選択し、ワーキンググループとして活動することで、これからの社会に求められる次世代を担うリーダーとして意識や課題発見力・課題解決力を育むことも狙いとしています。

授業では、選択したプロジェクト(テーマ)に関わる自治体・企業・学校・コーディネーターなどの指導の下、課題解決等についての知識や情報を得るための座学と実践（フィールドワーク）とを組み合わせを進め、最終的に課題解決に向けた提案を行います。

なお、本科目の授業方法は、受講生が協働でディスカッションやグループワークに取り組むアクティブラーニングを基本とします。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力、専門性

達成目標

- 社会課題を発見し、その結果を口頭・文章で明確に表現することができる。【自律性、社会性、地域・国際性】
- 課題の原因が何かを分析することができ、その結果を口頭・文章で明確に表現することができる。【自律性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力、専門性】
- 分析結果をもとに、課題を解決するための、実現性が高く効果的な行動計画を立て、その結果を口頭・文章で明確に表現することができる。【自律性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力、専門性】
- 社会課題の解決に関わる他者と積極的にコミュニケーションを取り、課題解決における自分の役割を認識し、取り組むことができる。【自律性、コミュニケーション・スキル、問題解決力】
- 行動計画を実行し、改善を繰り返しながら問題解決に向けて取り組み、その結果を口頭・文章で明確に表現することができる。【問題解決力】

評価基準と評価方法

【評価基準】

- 授業中のディスカッションへの参加度、毎回の授業の最後の振り返りシート（相手の意見に耳を傾けているか、自分の意見を言えるか）
- プレゼンテーションとレポート（授業で経験したことや成果をまとめ、発信できるか）
- Slack及びZoom（ブレイクアウトルーム）でのグループワークやディスカッションへの協力と貢献

【評価方法】

- 授業後のミニレポート（Slackでの振り返り）やプレゼンテーション等のアウトプット…40%
- グループによるプレゼンテーション発表…30%
- グループ内のファシリテーションや運営等…30%

履修条件

■初日のオリエンテーションとフィールドワーク及び最終発表会は重要です。

■特にフィールドワークは本科目の最重要回になりますので、対面で出席しないと単位は付与されません。

- オンライン（Zoom）上で高度なワーク（マルチタスク）に取り組むため、必ずハイスペックなデスクトップPC又はノートPCで受講すること（禁：スマートフォン・タブレット端末）。
- オンライン（Zoom）でグループワーク・ディスカッションに取り組むため、原則カメラは常時ONで受講すること（出席の前提条件）。
- グループワークに積極的に参加し、課題発見力・課題解決力を身につけようという意欲があること。
- 本科目を含む「ソーシャル・イノベーション人材養成プログラム」対象科目科目を受講することが望ましい。
- ソーシャル・イノベーション、社会課題並びに地域課題解決、グループワーク、グループディスカッション、ファシリテーションに関連する科目を受講していることが望ましい。
- 「地域公共政策士」資格対象科目（修士・学士）を受講することが望ましい。

授業計画

■木曜日第6時限（18：00～19：30）オンライン科目 対象自治体：宮古島市

- 第1日（10/2）オリエンテーション（シラバスの解説、遠隔授業ツールの解説）、受講生のアイスブレイク
- 第2日（10/9）ソーシャル・イノベーションとは何か
- 第3日（10/16）地域における社会課題①、そのテーマの深堀り
- 第4日（10/23）地域における社会課題②、そのテーマの深堀り
- 第5回（10/30）地域における社会課題③、そのテーマの深堀り
- 第6回（11/8）宮古島フィールドワーク① ※対面授業（午後）
- 第7回（11/9）宮古島フィールドワーク② ※対面授業（終日）
- 第8回（11/13）収集した情報の整理
- 第9回（11/20）社会課題の抽出①（原因分析の講義、ホワイトボードで整理）

⑩第10回(11/27) 社会課題の抽出②(問題点、課題を整理して図示化の講義)
⑪第11回(12/4) 課題解決に向けた方向性の検討①(発表の基本構成、5W1H等の講義)
⑫第12回(12/11) 課題解決に向けた方向性の検討②(ステークホルダーの講義)
⑬第13回(12/18) 中間発表(発表と質疑応答、質問、提案など)
⑭第14回(1/8) プレゼンテーション資料の作成
※自主的グループワーク(1/15、1/22)
⑮第15回(1/29) ソーシャル・イノベーション発表会の開催・講評 ※対面授業(琉大院生のみ)
※上記開講日程は、連携自治体等の都合により変更になることがあります。

【確認事項】

※宮古島フルドワークは11月8日～9日(1泊2日)の行程の予定になります。
※初回の前日までに、担当教員より本授業のZoomのURLを教務情報システムのメッセージ(学生)で送信するので、必ず確認の上受講してください。
※1課題当り4～5名のチーム編成を想定しています。
※指定日時以外にも「自主的グループワーク」等の活動に取り組むことがあります。

■ 事前学習

事前学習：本科目の学習管理・支援プラットフォームはチームコミュニケーションツール「Slack」になります。
Slack内の「講義資料」に資料があれば、事前学習に活用してください。
対象地域における社会課題について、その(事業)内容等を予め調べるとともに、問題の背景についても資料やWebなどで事前に把握しておいてください。

■ 事後学習

事後学習：本科目の学習管理・支援プラットフォームはチームコミュニケーションツール「Slack」になります。
毎回の授業終了後、Slack内で振り返りを行います(ミニレポートに相当)。
Slack内の「講義資料」に資料があれば、事後学習に活用してください。
グループメンバーと協力して地域課題解決プロジェクトをSlack内で検討します。
講義日以外についても、チーム内で学習、情報交換等を積極的に行い、特に授業時に未解決の問題については翌週までに解決させておいてください。

■ 教科書にかかわる情報

■ 教科書全体備考

講義の中で適宜紹介します。

■ 参考書にかかわる情報

■ 参考書全体備考

①第2次宮古島市総合計画【心かよう夢と希望に満ちた島宮古(みゃへく)～みんなで創る結いの島～】
<https://www.city.miyakojima.lg.jp/gyosei/kihonkeikaku/dai2jimi yakojimasisougoukeikaku.html>
②エコアイランド宮古島推進計画
https://www.city.miyakojima.lg.jp/gyosei/ecoisland/eco_plan.html
このほか、講義の中で適宜紹介します。

■ 使用言語

日本語

■ メッセージ

1. 本科目は「ソーシャルイノベーションデザイナー」資格取得のための選択科目です。
2. 本科目は宮古島市との連携・協力のもと、離島の社会課題について宮古島をフィールドに開講します。

■ オフィスアワー

研究室は以下のとおりです。
地域国際学習センター309号室(事前にメールで連絡)

■ メールアドレス

この項目は教務情報システムにログイン後、表示されます。

■ URL

大学連携型ソーシャル・イノベーション人材養成プログラム
<https://www.policy.ryukoku.ac.jp/socialinnovationpro/>